

多様なつながりとしあわせ循環社会

草郷 孝好

関西大学社会学部 社会システムデザイン専攻

「生物多様性条約と人間のしあわせ〜どこまでのいのちを愛せるか？」

国連大学

2010年7月10日

幸福度の質問

問1 現在、あなたはどの程度幸せですか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。

0点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点

日本人の幸福度

- ・ 幸福感の平均は6.5点
- ・ 男女別→女性の方が幸福感が高い
- ・ 年齢別→30歳代高く、年齢が上がるにつれて、低下

(平成21年度国民生活選好度調査(平成22年3月実施)結果から)

生活満足度の質問

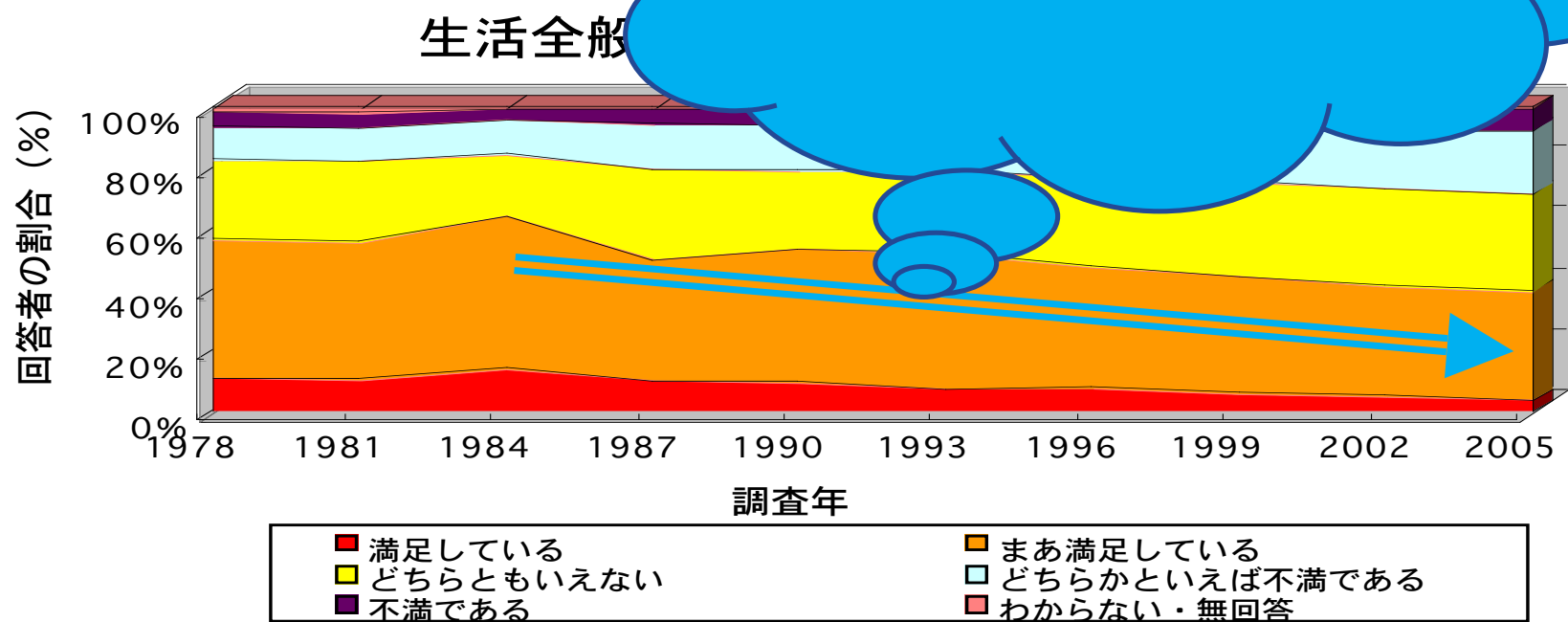
あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(○は1つ)

- 1 満足している
- 2 まあ満足している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不満である
- 5 不満である

生活への満足感

質問：あなたは生活全般に

「満足」+「まあ満足」の割合が減少



注：「国民生活選好度調査：国民の意識とニーズ」のデータをもとに作成。

GDP型の開発戦略

戦略

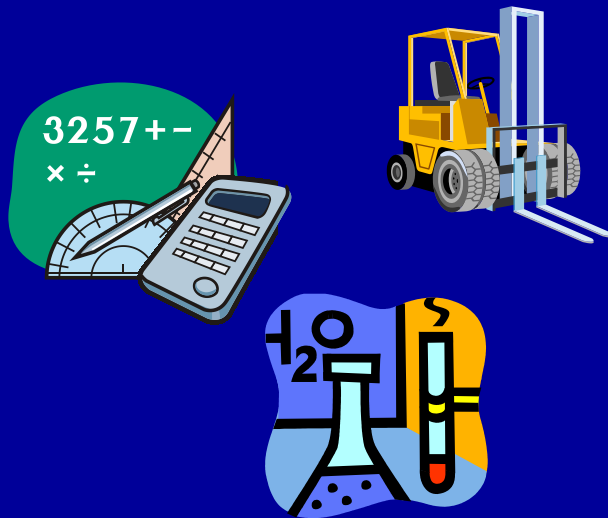
産業化による
経済開発・成長戦略

指標

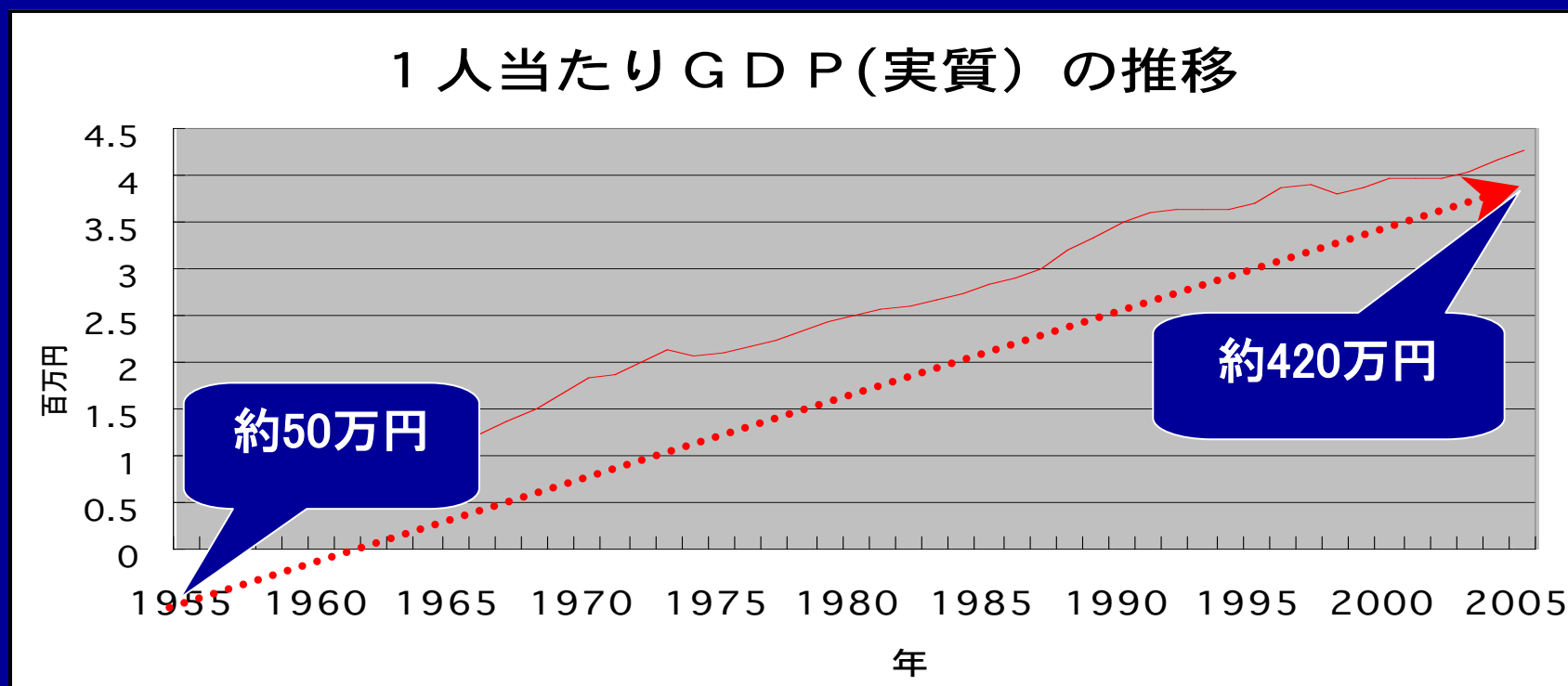
GDP指標
(経済指標)

目標

生活水準を高め
豊かさを享受



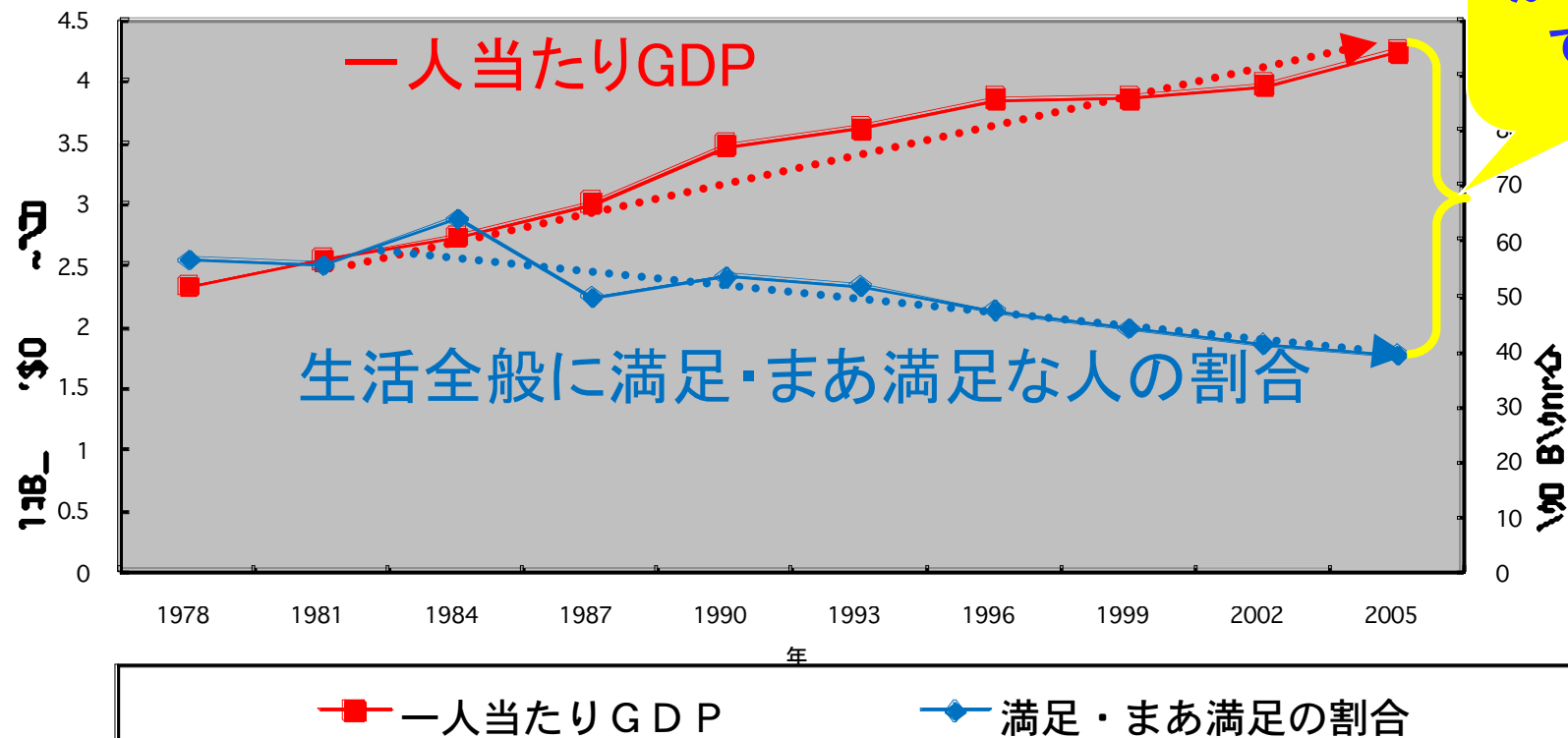
GDP(所得)は着実に増加



データ出所: 1955年から2000年までは国民経済計算報告(1990年基準)
2000年から2005年までは平成18年度国民経済計算(2000年基準・93SNA)

収入は上がる、されど、満足感は上がらず (イースタリンのパラドクス)

1人あたりGDPと生活満足度の推移



どんどん
かけ離れ
ていく

幸福・満足度を何で判断する？

- ・ 心理学、社会学、経済学、医学の研究からわかってきたこと
- ・ 経済基盤、健康、よい人間関係が3つのカギ
 - 健康な人ほど幸福度は高い
 - よい人間関係、社会関係を持つ人ほど幸福度は高い
 - 失業者の幸福度は極めて低い

幸福感を判断する際重視したこと

健康状況

・ 70パーセントが重視

家族関係

・ 66パーセントが重視

家計の状況

・ 65パーセントが重視

自由な時間・余暇

・ 47パーセントが重視

就業状況

・ 42パーセントが重視

友人関係

・ 39パーセントが重視

(平成21年度国民生活選好度調査(平成22年3月実施)結果から)

幸福感を判断する際重視したこと

健康状況

・ 70パーセントが重視

家族関係

・ 66パーセントが重視

家計の状況

・ 65パーセントが重視

自由な時間・余暇

・ 47パーセントが重視

就業状況

・ 42パーセントが重視

友人関係

・ 39パーセントが重視

(平成21年度国民生活選好度調査(平成22年3月実施)結果から)

つながりのあるしあわせ社会

地域における
助け合い

家族の助け合い

つながりは
しあわせ社会のカギ

見知らぬ人
への共感

自然とのつながり

つながりとしあわせを大切にする社会

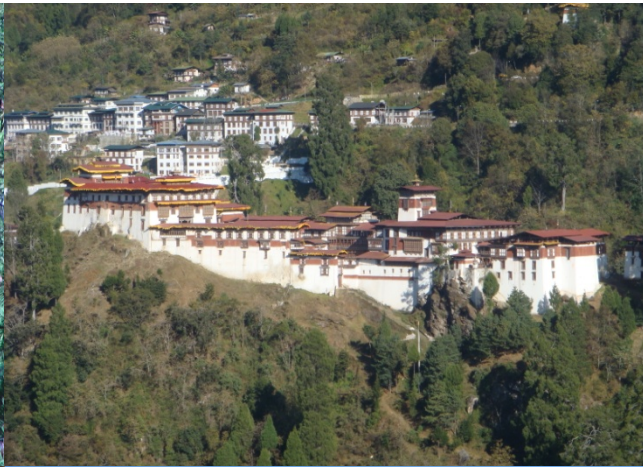
- ・ ブータンの国づくり: GNH
- ・ 水俣の人と環境の再生: もやいなおし

つながりとしあわせを大切にする社会

- ・ ブータンの国づくり: GNH
- ・ 水俣の人と環境の再生: もやいなおし

ブータン王国の概要

- ・ 南アジアの小国
 - 面積: 38,394 km² (参考: 九州: 39,809km²)
 - 人口: 634,982人 (国勢調査2005年5月)
- ・ 多様で豊富な自然
- ・ 立憲君主制
 - 第5代国王
ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク (Jigme Khesar Namgyal Wangchuck)



GNH(国民総幸福)

- ・ ブータン第4代国王のジグミ・シンゲ・ワンチュク(Jigme Singye Wangchuck)が「国民総幸福(Gross National Happiness: GNH)」を1970年代に提唱。
 - 「GDPよりもGNHが重要」
- ・ なんと、2005年の国勢調査で、国民の9割以上が幸福と回答。

GNHの思想

- ・ 何か物事を決める時には、自分への利害だけでは判断せず、家族・隣人などつながりのある人、生活する地域の自然環境などへの影響を考えて、総合的に判断する。



人、生物、環境との相互依存関係を尊重、維持、発展させていこうとする思想

ブータンGNH:4本柱

すべての国民・地域に恩恵の行き渡る社会・経済開発の発展を実現すること

公正な
社会経
済発展

ブータンの豊かな生態系を
守り続けること。

環境の
保全

GNH

文化
保存

よい
政治

住民参加型の責任あるよい
政治運営を行うこと。

ブータン社会の培ってきた
伝統文化の継承を図ること。



ブータン憲法とGNH

政府の役割は、GNHを追求できるような
諸条件の整備に努めることにある。（第9条第2項）

Article 9 Principles of State Policy

2. The State shall strive to promote those conditions that will enable the pursuit of Gross National Happiness.

GNH追
求につな
がるさま
ざまな環
境整備に
努める

所得格差
や富の集
中を最小
限となる
ように努
める

近代医療
と伝統医
療を用い
て国民に
無償で基
礎医療を
提供する

国民に働
く権利や
職業訓練
の機会を
与え、労
働条件の
整備に努
める

国土の最
低60%を
森林とし
て保全す
る

地域生活
の協働や
拡大家族
の保全に
努める

ブータンGNH型の開発戦略

戦略

GNH
4本柱



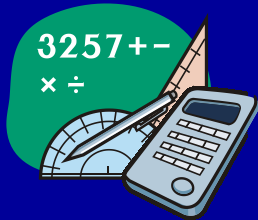
指標

GNH指数

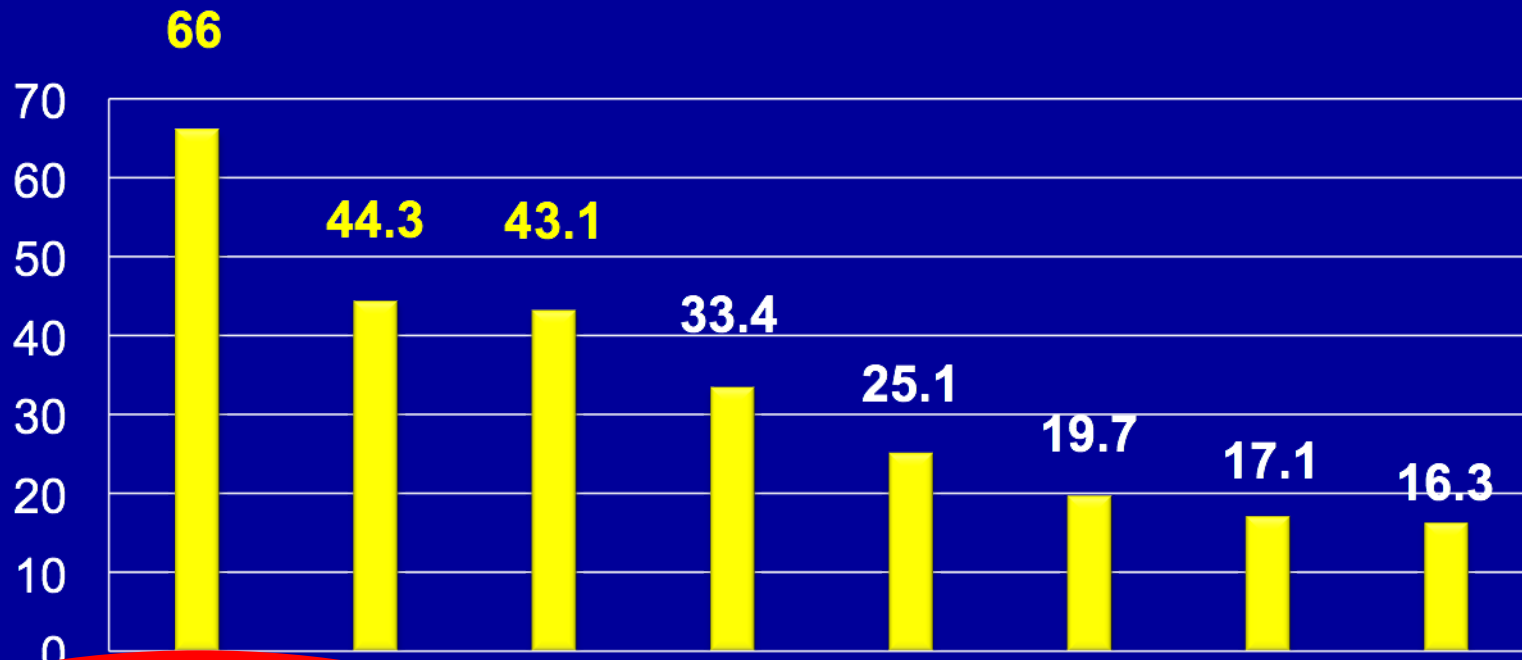


目標

ブータン人の
幸せな生活支援



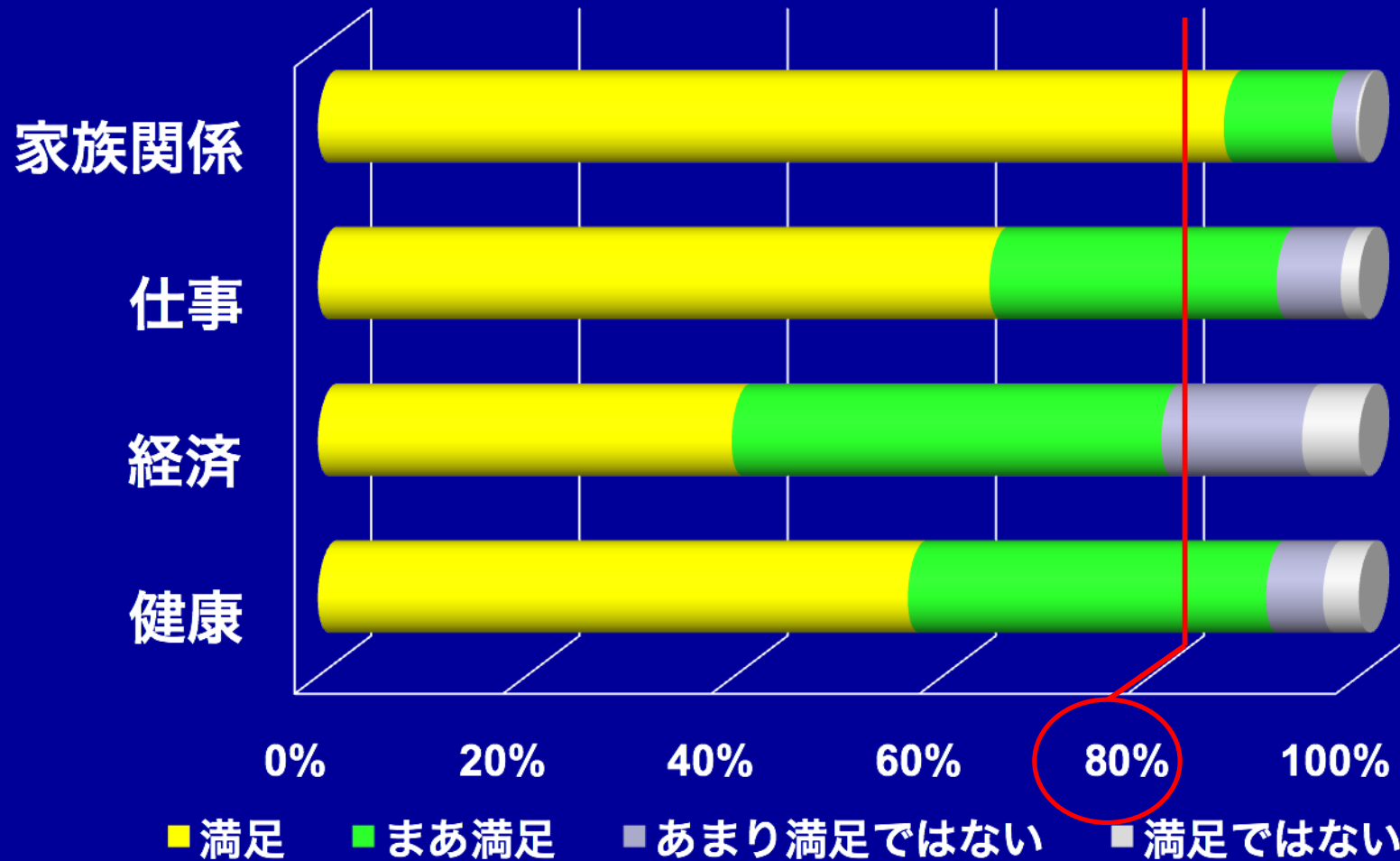
ブータン人の幸福に必要なもの



安定した財政基盤
よい家族関係
健康
農業生産
生活インフラ
教育・自己啓発
精神性の追求
雇用

幸福に欠かせないもの (割合%)

ブータン人の生活満足度



つながりとしあわせを大切にする社会

- ・ ブータンの国づくり: GNH
- ・ 水俣の人と環境の再生: もやいなおし

水俣の近代化と水俣病

- ・ 1908年～1950年代まで、先進企業チッソ水俣工場によって多くの雇用を生み出し、水俣は潤っていた。
- ・ しかし、チッソ工場からの工場廃水による有機水銀汚染が魚、鳥、ネコ、人間の順番で進み、水俣病（有機水銀中毒症）が発生（1956年）、以後、長年の受難の歴史。



- ・ しかし、2008年、水俣市は、国から最初の環境モデル都市の中の1つに認定された。

地域内の対立、分断化と孤立化



水俣再生へのターニングポイント

- ・ 1990年初頭、熊本県、水俣市、市民グループによる水俣再生への対話活動開始。
- ・ 1994年5月1日、当時の市長吉井正澄氏による水俣病犠牲者慰霊式におけるスピーチで水俣病患者に公式謝罪と『もやいなおし』を提唱。

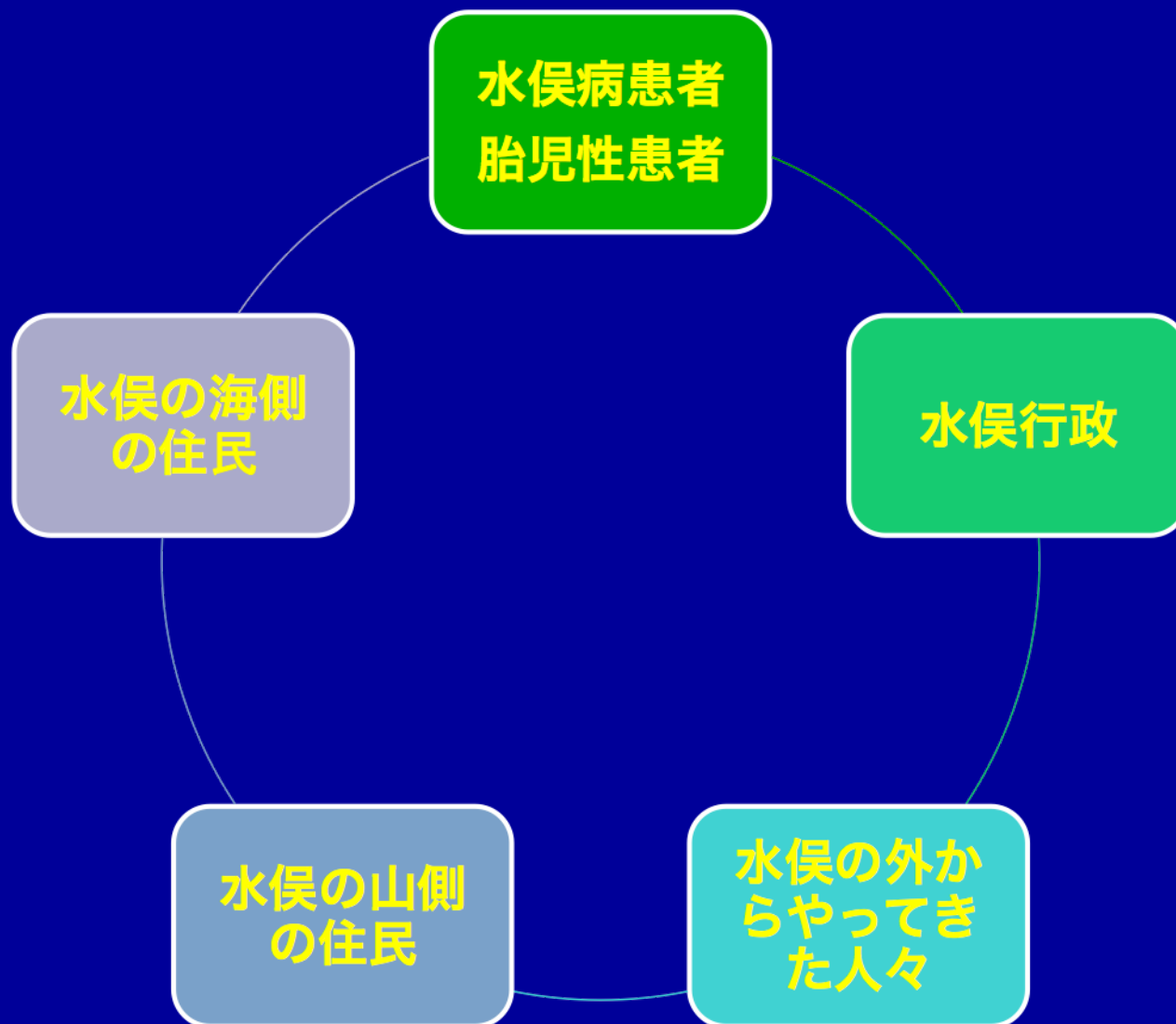
水俣再生へのターニングポイント 『もやいなおし』

- ・ 『もやいなおし』
 - 人間同士の心のつながりの修復につとめ、共に助けあって自分の生活する町・環境を再生していこう。
 - 環境と共生する水俣に生まれ変わろう。

つながりや環境を取り戻す取り組み

- ・ 水俣病患者による語り部（市立水俣病資料館）
- ・ 『環境モデル都市』実現という目標設定
 - 環境破壊（否定）を環境共生（肯定）へ！
- ・ 市民の手によるごみ分別（23種類）の展開
- ・ 女性市民グループによる食品トレイゼロ運動
- ・ 環境マイスター制度の導入
- ・ 地元学による住民主体の地域再生

水俣のもやいなおしにみるつながり



水俣のもやいなおしにみるつながり

水俣病患者
胎児性患者

対立していた人同士がつながって
いく中で、環境にやさしく住み
やすい町への取り組みが育まれ
た。

ついに
た人々

ブータンと水俣からの学び

- ・ 経済に加えて、自治、環境、文化の重要性を教
えてくれる
- ・ GDP型（環境支配型経済）からGNH型（環境
共生循環型経済）への転換
- ・ もやいなおしで、孤立社会から信頼社会を構築
していく

ブータン女王のことば

- ・ 個人および個人の行いは、必然的に他の人間および生き物に影響をおよぼす相互関連の一部です。
- ・ わたしたちはこの万物の相互関連性から逃れることはできないのです。わたしたちに与えられた唯一の選択肢は、この相互関連性を良い方向に向けるか、悪い方向に向かえるかということです。

鶴見和子のことば

- ・ 私は内発的発展を、「それぞれの地域の生態系に適合し、地域の住民の生活の基本的必要と地域の文化の伝統に根ざして、地域の住民の協力によって、発展の方向と筋道を創りだしていくという創造的な事業」と特徴づけたいと思います。

宮本常一のことば

- ・ それぞれの地域に住む者がその土地を真に愛し、その土地で生きのびてゆこうとするとき、その環境もまた美しくゆたかになっていくものではあるまいか。そういう人たちは遠い将来に対して夢を持っている。50年さき100年さきの自分たちの子や孫の住む環境を考えている。
- ・ 木は育つものである。育つから乱伐するのではなく、育つから大切にしなければならない。そしてそれが人々に寄与し、その生活と心をゆたかにする。

(宮本常一「風景はかわる」『自然と日本人』未来社(2003)258-259ページ)